

## 書 評



## 「看護に生かす病理学」

下 正宗 著, 桐書房 3,500円 (税別)

大滝 純司 (東京大学医学教育国際協力研究センター)

下正宗先生とは、もう何年になるでしょうか、ずいぶん以前からの知り合いです。病理の医者と言うと、堅物で、とっつきにくいというイメージがついてまわりますが、下先生は全く逆のタイプです。病理学に詳しい家庭医、といったフットワークの人です。その先生が、看護学生や看護職者向けの病理学の本を出版されました。

自慢するわけではないのですが、この本が送られてくるまで、私の本棚には病理の本が1冊もありませんでした。以前は1冊あったのですが、あまりに使わないし古くもなったので、転勤のときに捨ててしまいました。ですから、この本が届いたときにも、まあ、なんといいですか、ちょっと、まいったなあという感じでした。でも、以前に下先生からいただいた介護の教科書がとてもわかりやすく、私も、家族も、そして親戚もその恩恵にあずかったので、気を取り直して、読んでみました。

結論から先に申し上げますと、これは、通常の病理の本ではないですね。中学生から、お年寄りまで、もちろん看護学生さん、現職の看護師さん、そして私のように、本棚に病理の教科書がない医者にも、お勧めの本です。すごく基礎的な発生の話やマクロの解剖のことから病態生理まで、炎症・免疫・腫瘍などの総論から臓器別の各論まで、幅広く書かれています。

たとえば、病理組織のレポートに書いてあることを調べるのはこの本一冊で済まないことも時にはあるかもしれませんが、「肥大と過形成のちがひ」とか、「頸動脈小体とは何か」など、アレッ、なんか聞いたことあるけど、よくおぼえてないなあ、

ということが、全身について、いろいろ載っています。しかも、その前後には、解剖や生理や、時には検査値の解釈まで、関連事項が並んで載っているのです、ついでに色々な知識をつなげたり整理することが、比較的簡単にできる構成になっています。

そのほかの本書の大きな特徴は、ふんだんに盛り込まれている手書きのイラストです。本書は、下先生の8年間におよぶ看護学校での授業が元になった本だそうで、いかにも、教えるのが好きで上手な先生が、黒板やプリントにせっせと書いたという雰囲気の話が山ほど載っています。これが、とてもとても、わかりやすいのです。もちろんきれいな写真やCGも役立つことは多いのですが、このようなイラストのほうが、要点が単純化されて頭に入りやすくなることも多いのだと、あらためて実感できるようなイラストで一杯です。こうするとおぼえやすいという、学生さんたちからのアイデアが盛り込まれているようで、その効果かなとも、思いました。

病理と言うと、なんだかよくわからないむずかしいものだと感じてしまっている人には、きっと特効薬になると思います。

連絡先：大滝 純司 (おおたきじゅんじ)

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

医学部総合中央館

東京大学医学教育国際協力研究センター

電話：03-5841-3583(代表) / 03-5841-3547(直通)

FAX：03-5802-1845